

渡辺崋山

— 作画と思想 —

日比野 秀男
(常葉大学名誉教授) 著

A5判上製函入 本文三四〇頁 口絵八頁

ISBN 978-4-8055-0977-7 C3071

二〇二三年十二月刊

定価一四、三〇〇円

(本体一三、〇〇〇円+税一〇%)



『鷹見泉石像』(東京国立博物館蔵)



『千山万水図』(田原市博物館蔵)

本書は武士、学者、画家として生きた渡辺崋山(一七九三―一八四一)の、晩年の作画活動とその海防思想との関わりを明らかにし、これまで看過されてきた蟄居時代の作品制作時期の推定や遺書の実相に迫る。また崋山と師友たちとの交わりから、崋山にとって作画とは何であったのか、そして椿椿山に宛てた遺書に記された「極秘永訣」の意味について解明を試みる。

【著者略歴】日比野秀男(ひびの・ひでお)

一九四七年、静岡県生。
一九七三年、慶応大学大学院文学研究科修士課程修了。
静岡県教育委員会、静岡県立美術館主任学芸員、常葉学園短期大学教授、常葉大学教授、同造形学部長、常葉美術館長、掛川市二の丸美術館長、掛川市ステンドグラス美術館長など歴任。一九九七年三月、慶応大学より博士(美学)の学位を取得、常葉大学名誉教授。著書に『駿遠豆の木喰仏』(第一法規、一九八〇年)、編著『定本・渡辺崋山全三巻』(郷土出版社、一九九一年)、編著『美術館学芸員という仕事』(ベリかん社、一九九四年)、『東海道と美術』(静岡新聞社、一九九四年)、『渡辺崋山―秘められた海防思想―』(ベリかん社、一九九四年)、編著『幕末・明治の空前絶後の鍔絵師―伊豆の長八―』(平凡社、二〇一五年)など。

はじめに

第一章 華山を語る人々

(1) 伝記を語る人々

- 華山の時代／松岡次郎『全楽堂記伝』
- ／『渡邊家年譜』と『全楽堂記伝』
- 三宅友信『華山先生略伝補』／森銃三
- 『渡邊華山』／石川淳『渡邊華山』
- 蔵原惟人の自筆原稿／小澤耕一『華山
- 渡辺登』／佐藤昌介『渡辺華山』
- ドナルド・キーン『渡辺華山』

(2) 作品を語る人々

- 菅沼貞三『華山の研究』／吉沢忠
- 『渡辺華山』／土方定一『渡辺華山』
- ／華山の現在
- 五通の遺書

第二章

(1) 長男立への遺書

- 五通の遺書／自筆の遺書／『立宛遺書』
- ／自決決意と「十月十日」
- (2) 椿椿山などへの遺書

- 『椿椿山宛遺書』／「中山助右衛門宛
- 遺書」／金子武四郎宛遺書」／村上定平宛
- 遺書」

第三章

(1) 華山の「渡海願書」

- 華山の「渡海願書」と無人島渡航計画
- (2) 羽倉外記の伊豆七島巡視

- 羽倉外記の伊豆七島巡視と松浦静山／
- 外記と松崎慊堂／松浦静山『甲子夜話』
- ／「八丈島西山卜神居記碑」／外記の
- 伊豆七島巡視記録『南汎録』

(3) 伊豆七島巡視の成果

- 杉浦明平『小説渡辺華山』／『廻島画稿』
- ／長谷川寿山の『伊豆七島真景図巻』
- ／「八丈島全図写真」／華山の対外認識
- 『松崎慊堂像』と華山救済

第四章

(1) 「印々泥」と『松崎慊堂像』

- 正本・肖像スケッチ／『松崎慊堂像』と
- その草稿／石版『慊堂松崎先生遺墨』
- 及び『詩三首』／「印々泥」の肖像画

(2) 華山救済

- 華山逮捕／華山の容疑と周辺の人々／
- 『慊堂日曆』に見る華山／慊堂の救済
- 活動／蟄居後の華山と慊堂

第五章

(1) 『鷹見泉石像』の制作経緯

- 『鷹見泉石像』の出現／吉沢忠の疑問／
- 『笑顔武士像稿』／『鷹見泉石日記』
- 天保八年四月十五日の泉石／『鷹見泉石
- 像』の脇差／大槻磐溪の手紙

(2) 華山の人物表現

- 華山の肖像画／華山の人物画／鷹見家と
- 『鷹見泉石像』

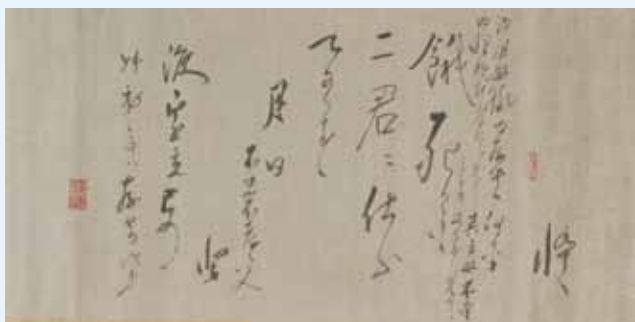
第六章

(1) 蟄居時代の作画と思想―極秘永訣―

- 『守困日歴』記述の作品／『鷓鴣捉魚図』
- ／制作年の遡及／『鷹見泉石像』右頬の
- こぶ／蟄居時代の作品の制作時期
- (2) 描かれた海防思想
- 『千山万水図』／『蟲魚帖』
- (3) 遺書としての作画
- 自決と作画／『千山万水図』と『黄梁一
- 炊図』

おわりに
はしがき
図版出典
史料

全楽堂記伝
華山先生略伝補
渡辺華山略年譜
主要索引



『立宛遺書』(田原市博物館蔵)

関連書籍

武士の絵画

中国絵画の受容と文人精神の展開
杉本欣久 著

定価 16,500 円 (本体価 15,000 円 + 税 10%)

江戸時代における思潮の中心であった儒教的価値観に着目することによって、どのような歴史観が構築できるかという観点から、江戸時代に生きた画家たちが憧憬した「文人」の精神や生き方を捉え、その絵画の成立背景を明らかにする。

A5 判上製函入 本文 594 頁 口絵 8 頁
2020 年 10 月刊 ISBN 978-4-8055-0882-4

江戸時代の女性画家

実践女子大学香雪記念資料館所蔵女性画家作品図録
仲町啓子 編

定価 11,000 円 (本体価 10,000 円 + 税 10%)

これまで日本美術史の研究において等閑視されてきた江戸時代の女性画家について、その緒に就くべく、その設立から女性画家の作品を収集してきた実践女子大学香雪記念資料館の収蔵品の作品論を中心に、25人の女性画家の多彩な人生と制作の魅力について論じた。さらには実践女子大学香雪記念資料館が所蔵する現代までの女性画家74人175点の作品をカラー図版にて掲載。コラム・略伝も付す充実の内容にて発行する。

A4 判上製カバー装 本文 112 頁 カラー図版 160 頁 後付 24 頁
2023 年 3 月刊 ISBN 978-4-8055-0969-2

江戸期実景図の研究

鶴岡明美 著

定価 16,500 円 (本体価 15,000 円 + 税 10%)

谷文晁「公余探勝図」を端緒とする江戸時代後期に盛行した、記録性を重視した実景表現による作品群について、諸作例の作風の特徴を分析し、描き続けられ受容されるに至った背景について、歴史的事象との関連性を明示した。実景図に具体的な検討を加え、その表現の系譜を解明し、こうした表現方法が生成された背景についての史的考察を試みた研究成果。

A5 判上製函入 本文 432 頁 口絵 16 頁
2012 年 10 月刊 ISBN 978-4-8055-0686-8

中央公論美術出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-10-1
IVYビル6F

Tel: 03-5577-4797 Fax: 03-5577-4798

お取り扱い